

## 2. 集計結果

### 2.1 県産農林水産物利用率の推移

#### 2.1.1 県産利用率全体の推移

令和5年度の学校給食における県産農林水産物（野菜、果実、畜産物、水産物の合計）の利用率（＝県産利用量÷総量、重量ベース）は27.2%と、前年度の28.6%から1.4ポイント減少した（図表1）。

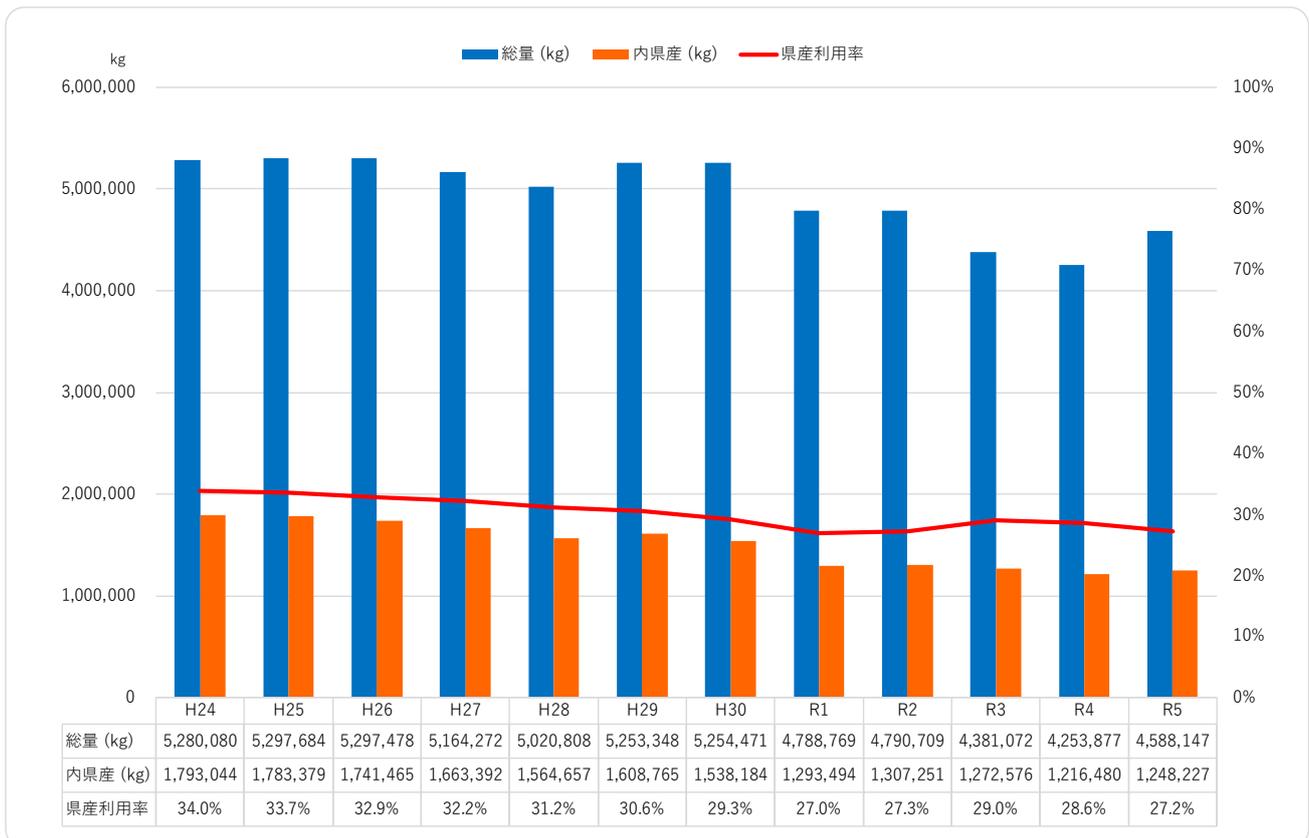
県産の利用率が30%弱であることの理由のひとつは、給食に使用される品目のうち利用量が多く、且つ重量物である品目（タマネギ、ニンジン、ダイコン等）は県内での主要産地がなく供給が難しいことがあると考えられる（P9、図表5）。令和3～4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で給食以外の取引量が減少した県産食材の学校給食への無償提供や、観光・飲食業等へ出荷されていた食材が比較的安価で出回り入手しやすくなったことなどが影響し、利用率が増加していた。しかし、令和5年度はコロナ禍が終息し、観光・飲食業等へ県産食材の流通が回復したため、無償提供の減少と重なって学校給食市場への商品供給が減少した。さらに、全国的な物価高騰の影響を受けて、比較的割高な県産食材が取り扱えなくなったことが利用率減少の要因と考えられる。

学校給食で使われた農林水産物の総量は4,588,147 kg（前年度比+334,270 kg）、うち県産利用量は1,248,227 kg（+31,747 kg）と、前年度に比べ利用率は減少したものの、総量・県産利用量ともに増加した。月別の推移を見ると、8・9・11月の3ヶ月以外の月で県産利用量が増加していることがわかる（図表2）。

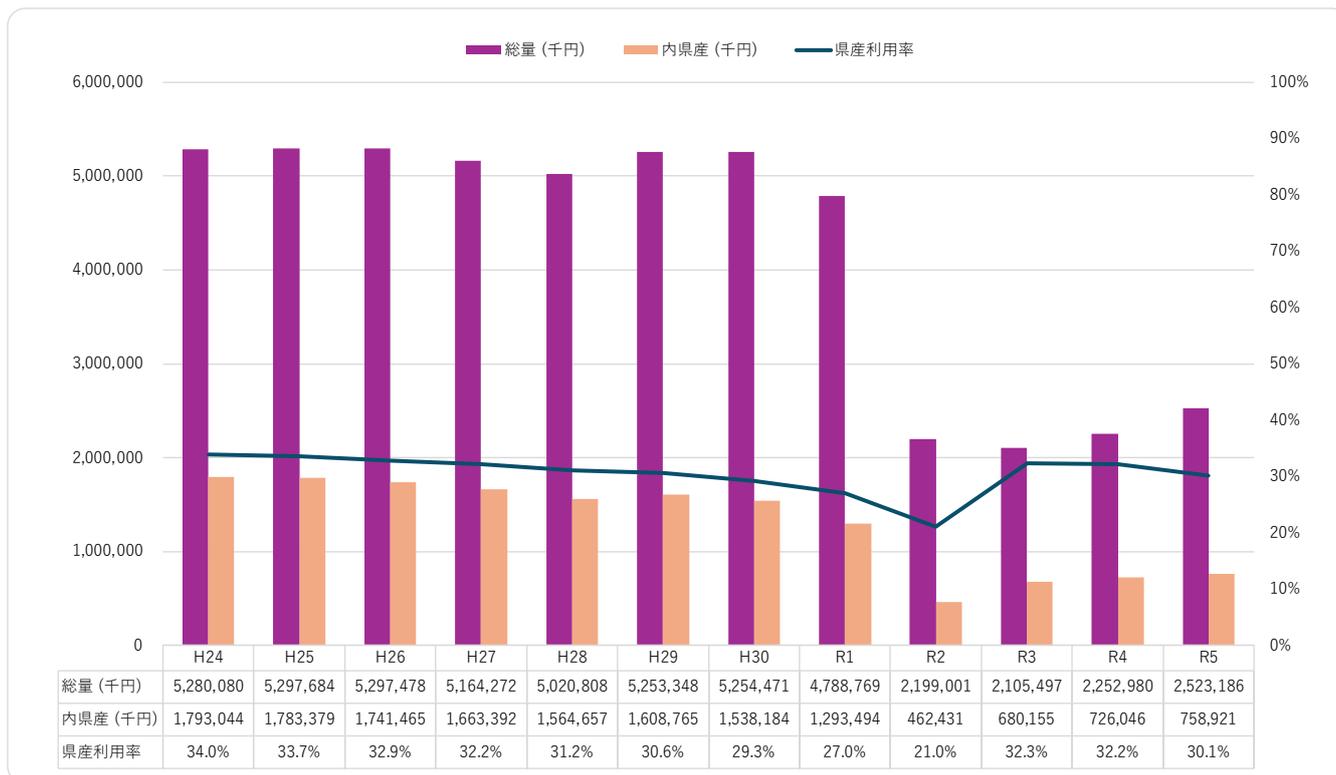
なお、金額ベースでは、令和5年度の県産利用率は30.1%（▲2.1pt）と前年度より微減した。総額25億2318.6万円（前年度比+27,020.5万円）のうち、県産に使われた金額は7億5892.1万円（+3,287.5万円）であった。

（図表1）学校給食における農林水産物の県産利用率及び総量の推移

#### ■重量ベース



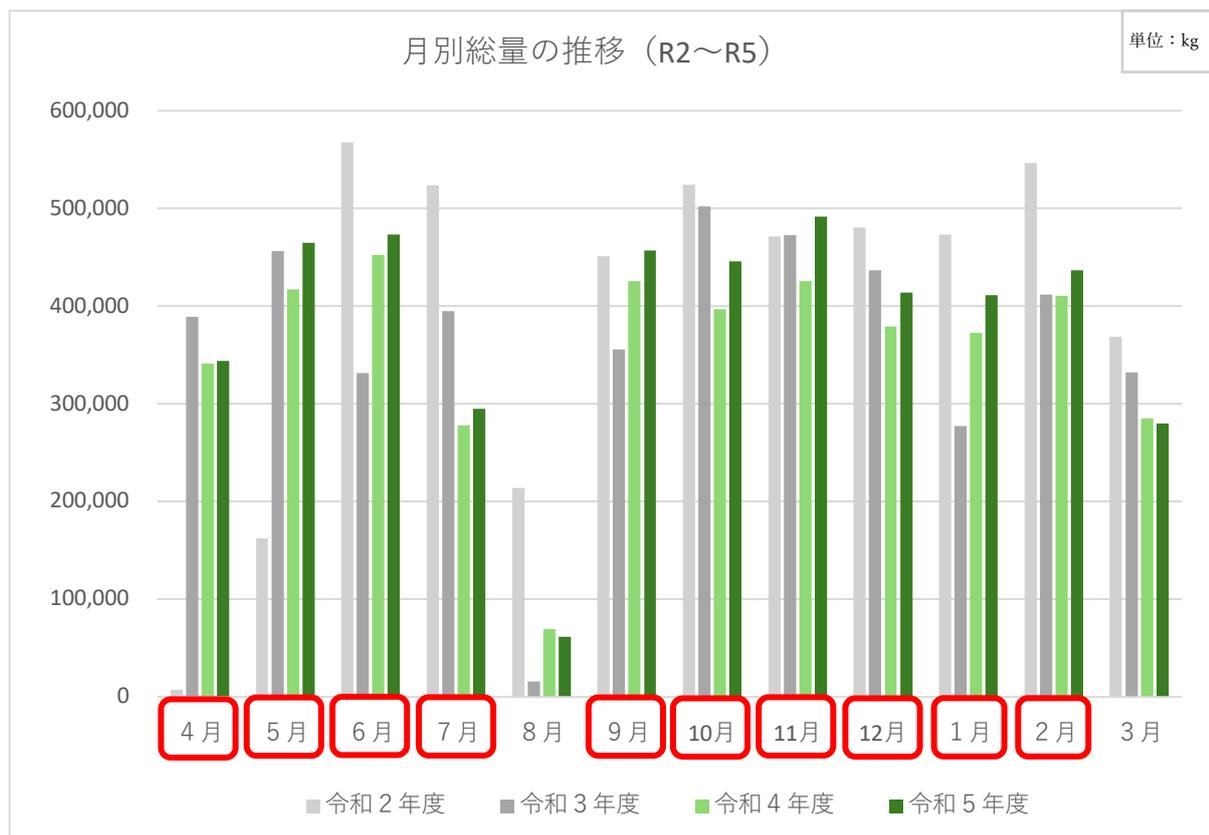
■金額ベース



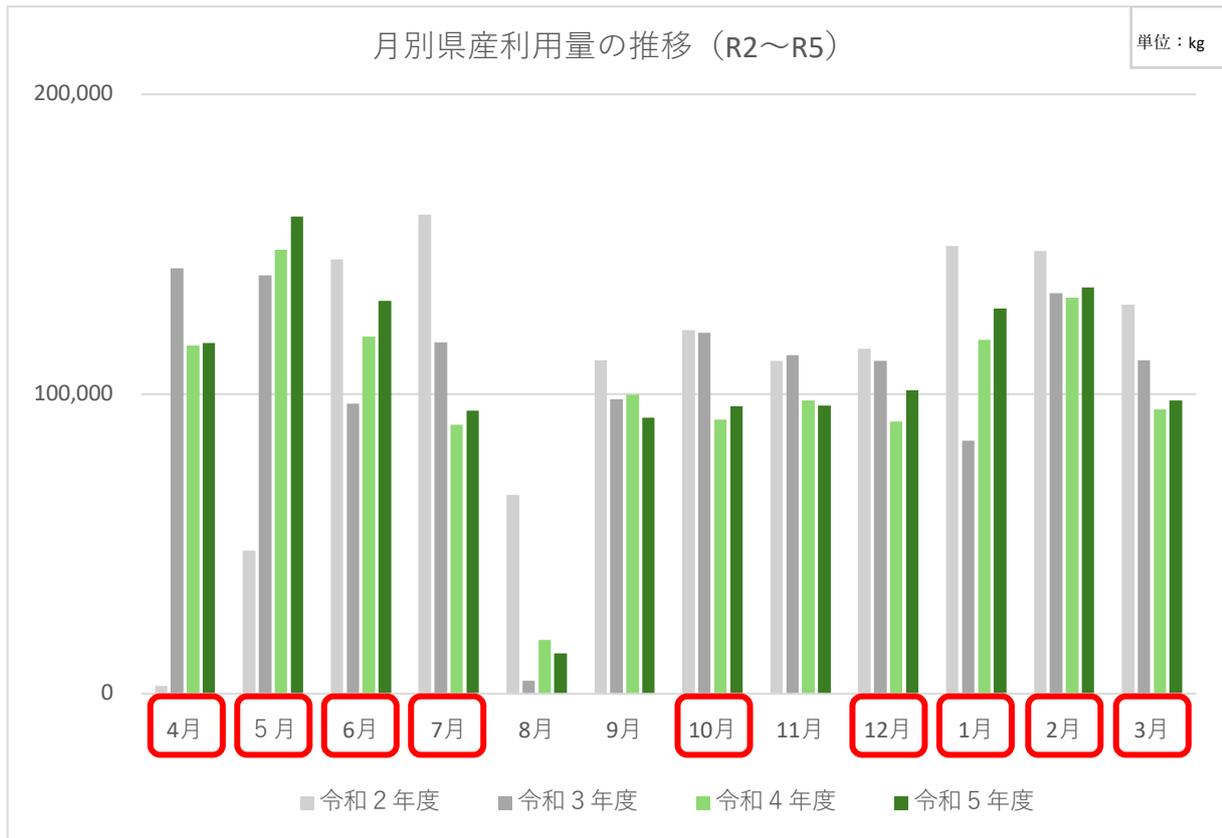
(図表 2) 学校給食における農林水産物の月別総量及び県産利用量の 4 年比較 (令和元~4 年度)

■月別総量

□ : R4 に比べ R5 の利用量が増加した月



■月別県産利用量



## 2.1.2 品目別県産利用率の推移

令和5年度の学校給食における県産利用率（以下、重量ベース）を品目別に見ると、「野菜」が24.4%（▲1.7pt）、「果実」が11.6%（+0.1pt）と最も低く、「畜産物」の45.5%（▲1.8pt）が最も高く、「水産物」が23.7%（▲1.9pt）であった。「果実」だけが前年度に比べ微増となった。

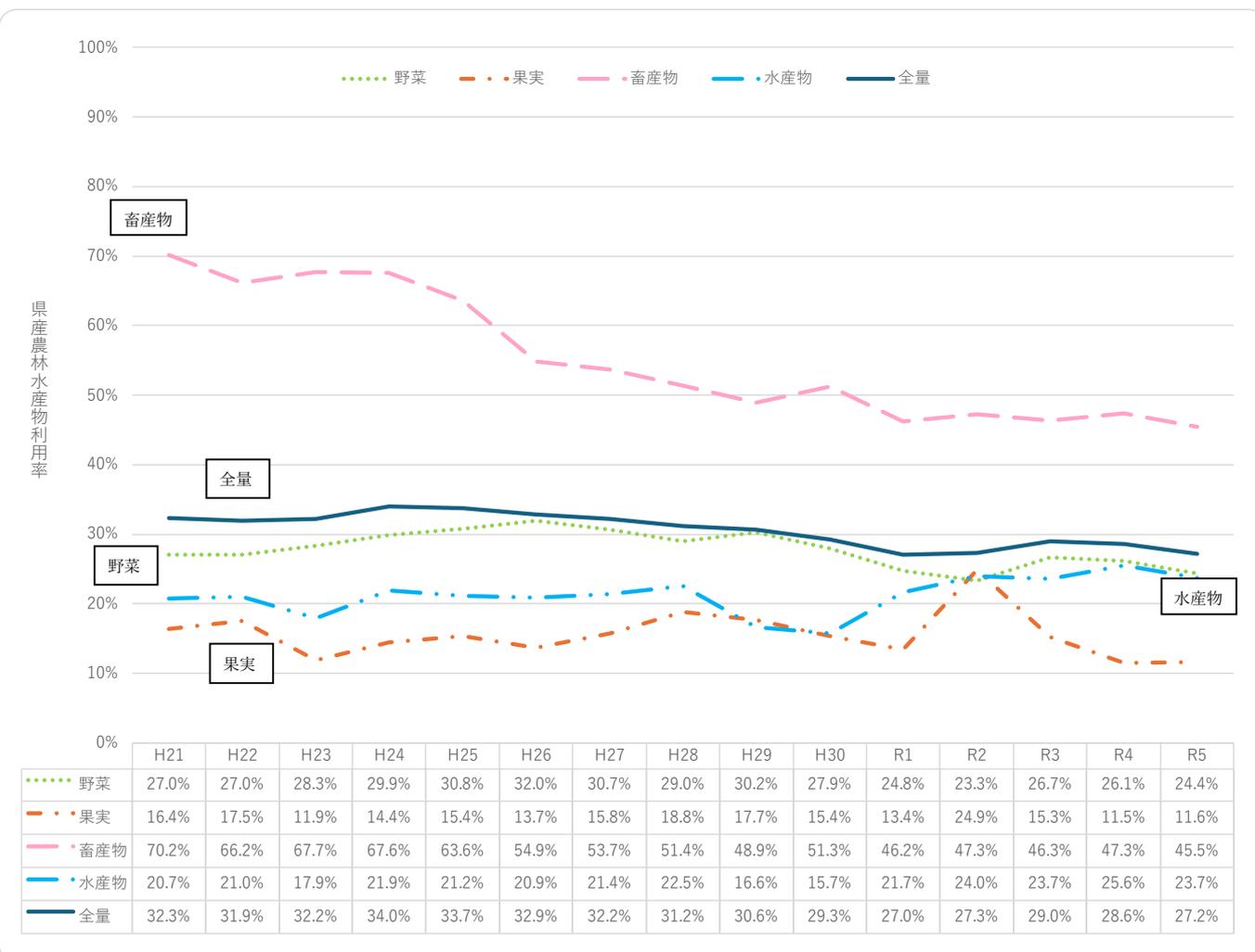
「野菜」は、平成26年度の最高値（32.0%）以降は漸減傾向にあり、令和5年度は前年度、葉茎菜類の生育不良、発芽不良の影響等で利用率が下がったもののチンゲンサイやホウレンソウ、小松菜も入手しやすくなったことで利用率が回復、また市場で多く出回ったオクラの利用率も上昇した。

「果実」は、県産かんきつの収穫量増減とほぼ連動して10%台で推移していたが、令和2年度にマンゴーやパイナップル等のコロナ禍の無償提供により24.9%まで急上昇した。しかし、その後は収穫量の減少および価格高騰に伴い減少の一途をたどっている。令和5年度は前年度に比べ増加したものの、前年度比は僅か0.1ptにとどまった。

「畜産物」は、平成21年度には70.2%と突出していたが、その後は減少傾向にあり、「豚肉」、「卵」、「鶏肉」は比較的利用率は高いものの、今年度も引き続き減少している。

「水産物」は、20%前後で微増・微減を繰り返してきたが、令和2年度にソデイカや魚類等のコロナ禍の無償提供により24.0%まで上昇した。令和4年度は「魚類」が豊漁であったことと「もずく」、「ソデイカ」の積極的利用を受け、前年に比べ増加したものの、令和5年には再び減少している。

（図表3）学校給食における県産利用率の品目別推移



### 2.1.3 品目別県産利用量の推移

県産利用量の内訳を見ると、「野菜」が最も多く全体の6割で、「畜産物」が3割、「果実」および「水産物」が残りの1割を占めており、平成24年度以降はおおむねこの割合で推移している。ただし、県産利用量は平成24年度(1,793,044kg)をピークに減少傾向にあり、令和元年度以降はピーク時の7割を推移している(図表4)。

令和5年度の県産利用量は合計1,248,227kg(+31,747kg)、品目別では「野菜」777,983kg(+14,186kg)、「果実」が33,742kg(▲2,319kg)、「畜産物」が365,119kg(+23,246kg)、「水産物」が71,384kg(▲3,365kg)と、「野菜」および「畜産物」が増加した。

(図表4) 学校給食における県産利用量の品目別推移

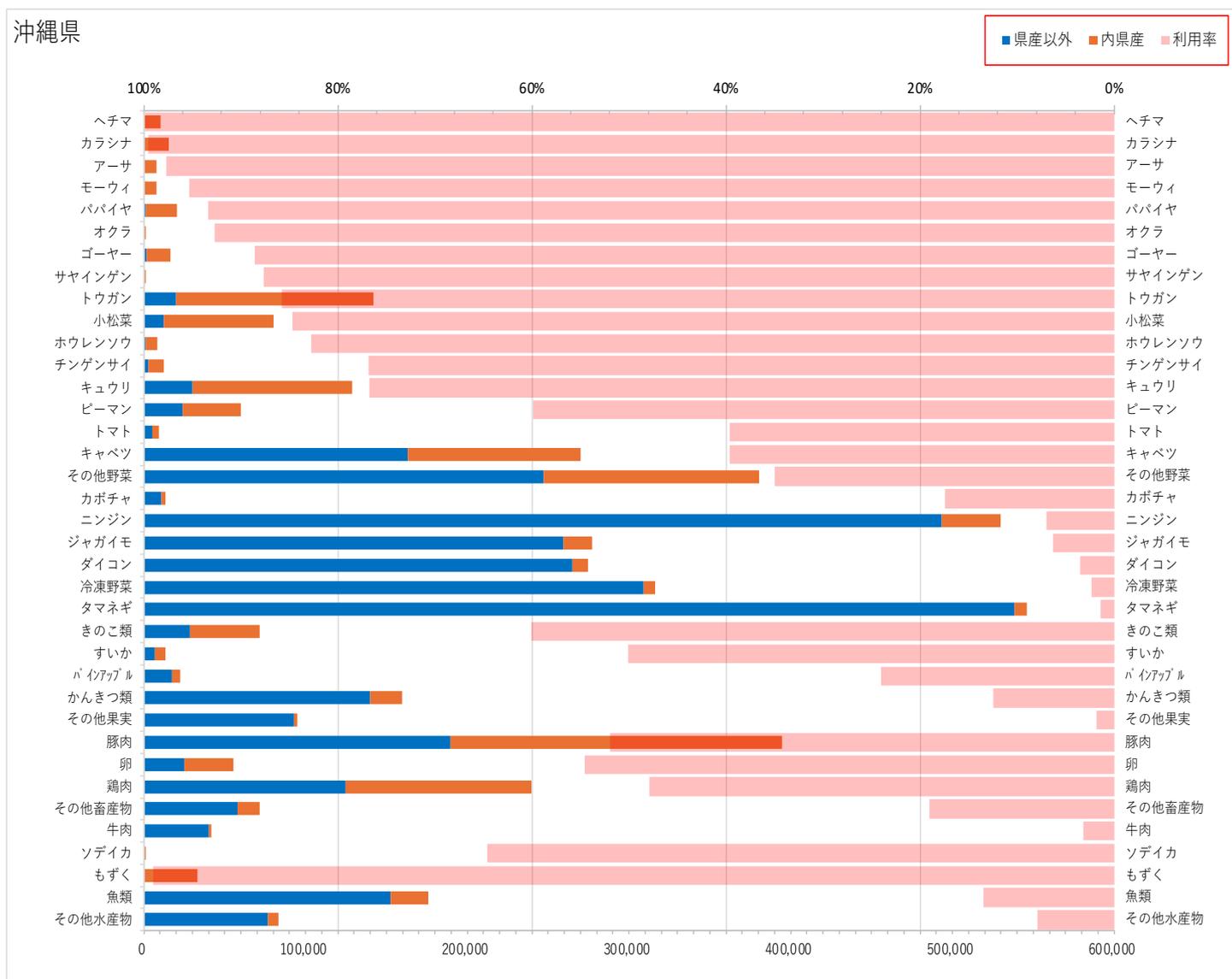


## 2.1.4 品目別県産利用率と総量の関係

品目別の県産利用率を総量と合わせて見ると、例年、県産利用率が100%に近い品目ほど利用量が少なく、逆に総量が多い品目の県産利用率が低い傾向がある。

以下のグラフを見ると、「ヘチマ」「アーサ」「モーウィ」「カラシナ」「もずく」など県産利用率が上位品目の利用量に対し、「タマネギ」「ニンジン」など下位品目の総量が突出して大きい。日々の献立で利用頻度の高い重量野菜の県産利用量が不足していることが分かる。(図表5)

(図表5) 令和5年度 学校給食における品目別県産利用率と総量の関係 (県産利用率降順)



## 2.2 令和5年度の品目別集計結果

### 2.2.1 野菜

「野菜」の県産利用率は全体で 24.4%（前年度比▲1.7pt）と減少したものの、「野菜」全体の総量が 3,193,060kg（+267,267kg）、県産利用量は 777,983kg（+14,186kg）と前年度に比べ総量、県産利用量共に増加した（図表 6-1）。

内訳を見ると、令和5年度は前年度を上回ったのが 23 品目中 13 品目と大きく増える結果となった。

最も上昇幅が大きかったのは「チンゲンサイ」（76.9%、+19.6pt）、次いで「オクラ」（92.7%、+15.8pt）、「ホウレンソウ」（82.7%、+10.3pt）となっている。これらの県産「チンゲンサイ」や「ホウレンソウ」など葉茎菜類の野菜は、令和4年度は長雨や高温等による生育不良、発芽不良で品薄となり利用率が大幅に低下したが、令和5年度は例年通りの収穫量が確保されたことが増加要因の一つとなっている。

令和5年度は、収穫時期に2度の台風直撃があり、この影響で収穫量が減少し、県産の入手が困難だった「ゴーヤー」（88.5%、▲9.6pt）、「トウガン」（85.8%、▲8.7pt）、また植え付け苗に影響を受けた「トマト」（39.6%、▲14.6pt）が大きく減少した。

令和5年度は、全品目を通して県産利用率 100%を達成する品目はなかったものの、「ヘチマ」は 99.9%、「カラシナ」は 99.6%だった。この2品目はほぼ県産利用率 100%に達しており、安定的に入手しやすく、また沖縄の料理にも利用しやすい食材なため利用率が高いといえる。また、本2品目の他に、沖縄県産の主力食材である「オクラ」や沖縄の伝統的農産物（島野菜）である「パパイヤ」「モーウィ」も県産利用率 90%を上回っている。

（図表 6-1）令和5年度「野菜」の品目別重量及び県産利用率（重量ベース・令和4年度比）

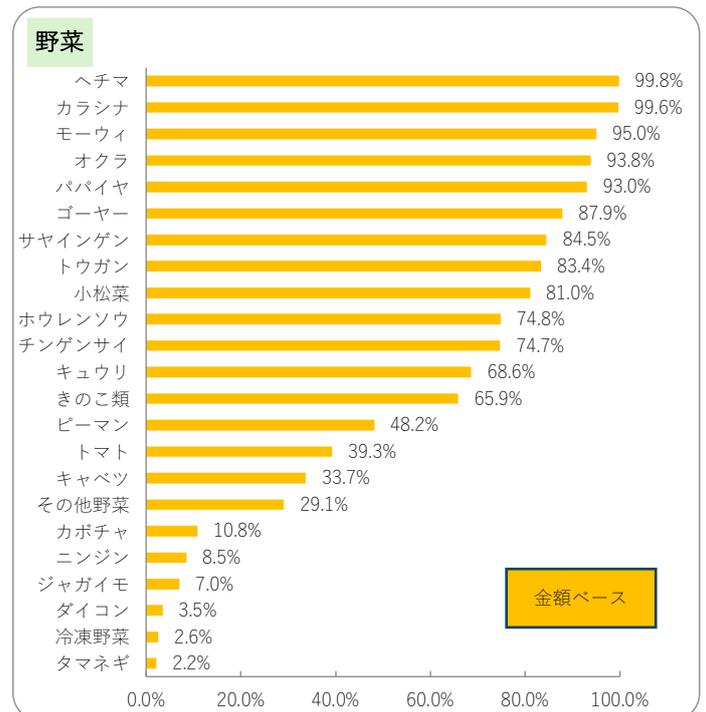
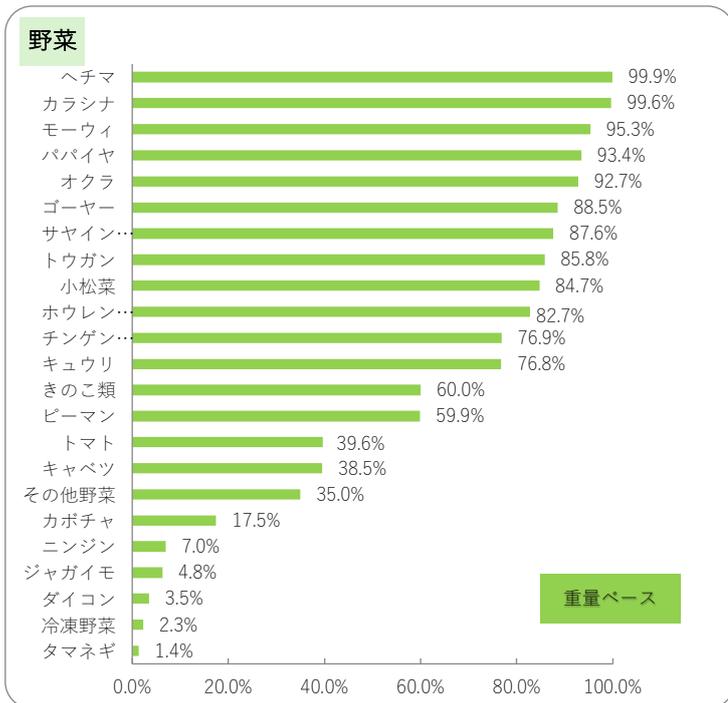
	令和4年度			令和5年度			増減		
	総量 (kg)		県産 利用率	総量 (kg)		県産 利用率	総量 (kg)		県産 利用率
	総量	内県産		総量	内県産		総量	内県産	
<b>野菜合計</b>	<b>2,925,793</b>	<b>763,797</b>	<b>26.1%</b>	<b>3,193,060</b>	<b>777,983</b>	<b>24.4%</b>	<b>267,267</b>	<b>14,186</b>	<b>▲1.7%</b>
1 小松菜	73,404	55,144	75.1%	80,031	67,783	84.7%	6,627	12,639	9.6%
2 カラシナ	15,343	14,999	97.8%	15,650	15,583	99.6%	307	584	1.8%
3 チンゲンサイ	12,925	7,400	57.3%	12,141	9,331	76.9%	▲784	1,931	19.6%
4 ホウレンソウ	8,759	6,348	72.5%	8,482	7,018	82.7%	▲277	670	10.3%
5 キャベツ	247,048	95,812	38.8%	270,134	107,010	39.6%	23,086	11,197	0.8%
6 ゴーヤー	15,496	15,205	98.1%	16,357	14,481	88.5%	861	▲725	▲9.6%
7 キュウリ	121,931	87,224	71.5%	128,735	98,851	76.8%	6,804	11,627	5.3%
8 トマト	11,232	6,085	54.2%	9,147	3,624	39.6%	▲2,085	▲2,461	▲14.6%
9 ピーマン	54,812	33,432	61.0%	59,879	35,848	59.9%	5,067	2,415	▲1.1%
10 トウガン	136,059	128,530	94.5%	142,022	121,854	85.8%	5,963	▲6,676	▲8.7%
11 サヤインゲン	1,444	1,404	97.2%	1,186	1,039	87.6%	▲259	▲365	▲9.6%
12 オクラ	716	551	77.0%	1,158	1,074	92.7%	441	522	15.8%
13 ヘチマ	12,576	12,529	99.6%	10,443	10,432	99.9%	▲2,133	▲2,097	0.3%
14 パパイヤ	29,471	29,074	98.7%	20,725	19,360	93.4%	▲8,746	▲9,714	▲5.2%
15 カボチャ	19,738	1,836	9.3%	13,256	2,314	17.5%	▲6,481	479	8.2%
16 モーウィ	9,523	9,388	98.6%	7,749	7,383	95.3%	▲1,774	▲2,005	▲3.3%
17 ニンジン	483,995	47,611	9.8%	530,011	36,895	7.0%	46,017	▲10,716	▲2.9%
18 ジャガイモ	238,170	11,078	4.7%	277,014	17,413	6.3%	38,843	6,336	1.6%
19 ダイコン	248,208	6,061	2.4%	274,581	9,635	3.5%	26,372	3,574	1.1%
20 タマネギ	460,773	3,548	0.8%	546,159	7,717	1.4%	85,386	4,169	0.6%
21 きのご類	67,082	39,011	58.2%	71,607	42,969	60.0%	4,525	3,958	1.9%
22 冷凍野菜	268,041	7,125	2.7%	316,121	7,279	2.3%	48,080	154	▲0.4%
23 その他野菜	389,047	144,402	37.1%	380,472	133,091	35.0%	▲8,575	▲11,311	▲2.1%

金額ベースでは、令和5年度の県産利用率は28.5% (▲0.7pt) と前年度より微減した。23品目中、12品目で県産利用率が改善しており、このうち「チンゲンサイ」(74.7%、+19.8pt) が最も大きく上昇した。「野菜」の総額は11億5,661.9万円(前年度比+1億1,442.3万円)、このうち県産が3億2,922.8万円(+2,538.9万円)と、いずれも増加したものの利用率は前年度より減少した(図表6-2)。

(図表6-2) 令和5年度「野菜」の品目別金額及び県産利用率(金額ベース・令和4年度比)

	令和4年度			令和5年度			増減		
	総額(千円)		県産利用率	総額(千円)		県産利用率	総額(千円)		県産利用率
	総額(千円)	内県産		総額(千円)	内県産		総額(千円)	内県産	
<b>野菜合計</b>	<b>1,042,197</b>	<b>303,839</b>	<b>29.2%</b>	<b>1,156,619</b>	<b>329,228</b>	<b>28.5%</b>	<b>114,423</b>	<b>25,389</b>	<b>▲0.7%</b>
1 小松菜	35,218	24,888	70.7%	37,611	30,483	81.0%	2,393	5,595	10.4%
2 カラシナ	7,891	7,715	97.8%	8,465	8,434	99.6%	574	719	1.9%
3 チンゲンサイ	7,296	4,010	55.0%	7,185	5,369	74.7%	▲111	1,359	19.8%
4 ホウレンソウ	5,800	3,761	64.8%	5,689	4,257	74.8%	▲111	496	10.0%
5 キャベツ	44,626	14,728	33.0%	56,603	19,082	33.7%	11,977	4,354	0.7%
6 ゴーヤー	7,597	7,411	97.5%	9,815	8,626	87.9%	2,218	1,215	▲9.7%
7 キュウリ	56,204	39,487	70.3%	71,878	49,325	68.6%	15,674	9,838	▲1.6%
8 トマト	7,249	4,007	55.3%	5,541	2,175	39.3%	▲1,709	▲1,832	▲16.0%
9 ピーマン	29,897	16,326	54.6%	41,270	19,873	48.2%	11,374	3,547	▲6.5%
10 トウガン	29,237	27,415	93.8%	32,243	26,875	83.4%	3,006	▲539	▲10.4%
11 サヤインゲン	1,411	1,344	95.2%	1,013	856	84.5%	▲399	▲488	▲10.7%
12 オクラ	614	510	83.1%	1,210	1,135	93.8%	597	625	10.7%
13 ヘチマ	7,680	7,646	99.6%	4,981	4,969	99.8%	▲2,700	▲2,677	0.2%
14 パパイヤ	20,569	20,212	98.3%	15,022	13,974	93.0%	▲5,547	▲6,238	▲5.2%
15 カボチャ	18,104	938	5.2%	11,510	1,243	10.8%	▲6,594	305	5.6%
16 モーウイ	2,310	2,271	98.3%	2,075	1,972	95.0%	▲235	▲300	▲3.3%
17 ニンジン	109,578	10,829	9.9%	116,813	9,931	8.5%	7,235	▲898	▲1.4%
18 ジャガイモ	54,584	3,312	6.1%	69,789	4,905	7.0%	15,205	1,593	1.0%
19 ダイコン	41,285	1,163	2.8%	46,261	1,605	3.5%	4,975	442	0.7%
20 タマネギ	138,664	1,575	1.1%	122,154	2,648	2.2%	▲16,510	1,073	1.0%
21 きのご類	61,271	39,549	64.5%	72,666	47,873	65.9%	11,395	8,324	1.3%
22 冷凍野菜	159,408	5,184	3.3%	217,434	5,603	2.6%	58,026	419	▲0.7%
23 その他野菜	195,702	59,559	30.4%	199,392	58,016	29.1%	3,690	▲1,543	▲1.3%

(図表6-3) 令和5年度「野菜」の品目別県産利用率(左:重量ベース、右:金額ベース)



## 2.2.2 果実

「果実」の県産利用率は11.6% (+0.1pt) と、利用率は微増となったが、全体の総量は290,647kg (▲22,477kg)、県産利用量も33,754kg (▲2,319kg) と前年度に比べ大幅に減少した(図表7-1)。

金額ベースでは、県産利用総額は1,726.4万円 (▲265.2万円)、利用率は11.4% (▲2.5pt) と減少したものの、「果実」の総額は1億5184.5万円 (+804.2万円) と前年度に比べ増加した(図表7-2)。

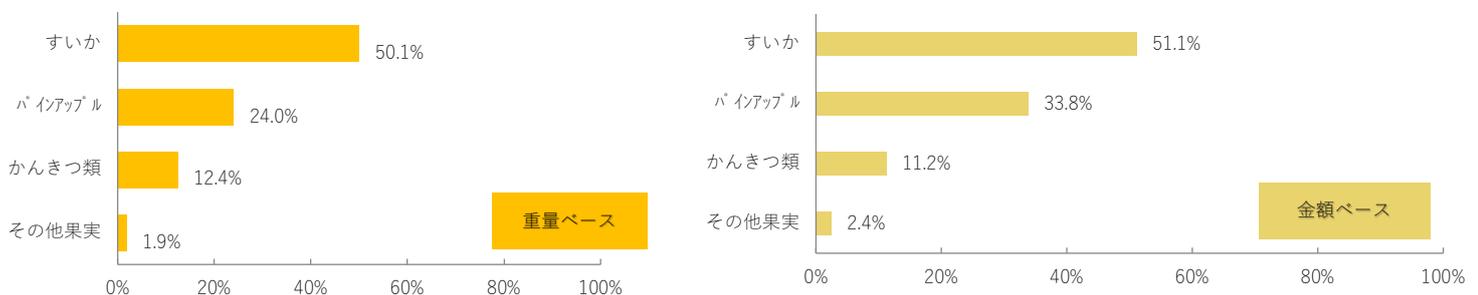
(図表7-1) 令和5年度「果実」の品目別重量及び県産利用率(重量ベース・令和4年度比)

	令和4年度			令和5年度			増減		
	総量(kg)		県産利用率	総量(kg)		県産利用率	総量(kg)		県産利用率
	総量	内県産		総量	内県産		総量	内県産	
<b>果実合計</b>	<b>313,124</b>	<b>36,060</b>	<b>11.5%</b>	<b>290,647</b>	<b>33,742</b>	<b>11.6%</b>	<b>▲22,477</b>	<b>▲2,319</b>	<b>0.1%</b>
1 かんきつ類	178,334	22,837	12.8%	159,931	19,910	12.4%	▲18,403	▲2,927	▲0.4%
2 パインアップル	31,417	6,144	19.6%	22,690	5,456	24.0%	▲8,727	▲687	4.5%
3 すいか	9,190	5,652	61.5%	13,220	6,621	50.1%	4,031	969	▲11.4%
4 その他果実	94,183	1,428	1.5%	94,805	1,755	1.9%	622	327	0.3%

(図表7-2) 令和5年度「果実」の品目別金額及び県産利用率(金額ベース・令和4年度比)

	令和4年度			令和5年度			増減		
	総額(千円)		県産利用率	総額(千円)		県産利用率	総額(千円)		県産利用率
	総額	内県産		総額	内県産		総額	内県産	
<b>果実合計</b>	<b>143,803</b>	<b>19,916</b>	<b>13.8%</b>	<b>151,845</b>	<b>17,264</b>	<b>11.4%</b>	<b>8,042</b>	<b>▲2,652</b>	<b>▲2.5%</b>
1 かんきつ類	74,881	12,784	17.1%	75,344	8,460	11.2%	462	▲4,325	▲5.8%
2 パインアップル	14,301	3,345	23.4%	15,116	5,113	33.8%	815	1,768	10.4%
3 すいか	3,745	2,141	57.2%	4,518	2,310	51.1%	773	169	▲6.0%
4 その他果実	50,876	1,646	3.2%	56,867	1,382	2.4%	5,991	▲263	▲0.8%

(図表7-3) 令和5年度「果実」の品目別県産利用率(左:重量ベース・右:金額ベース)



### 2.2.3 畜産物

「畜産物」の県産利用率は45.5%（▲1.8pt）と、前年度に比べ減少した。品目別では、「豚肉」（▲4.4pt）、「牛肉」（▲0.3pt）、「その他畜産物」（▲7.9pt）とほとんどの品目が前年度に比べが減少する結果となった。

県産利用率が最も高いのは「卵」（54.6、4.3pt）で、豚肉（51.9%、▲4.4pt）とともに利用率が高い。「豚肉」、「卵」、「鶏肉」は県内では家畜生産者が多く、比較的安価で入手しやすいこと、また献立レパートリーが豊富であることから、学校給食では使用頻度が高い。昨年度に引き続き価格高騰に伴い、比較的安価で入手しやすいハムやソーセージなどの「その他畜産物」の利用量は増加傾向にあるものの、今年度は「その他畜産物」よりも更に安価に入手しやすい「その他水産物」に移行した調理場が多いため利用率が減少した。（「その他畜産物」県産利用量+1,675kg、▲7.9%）

「畜産」全体の総量は802,936kg（+80,503kg）、県産利用量は365,119kg（+23,246kg）と前年度に比べ総量はいずれも増加した（図表8-1）。

金額ベースの県産利用率は、39.4%（▲4.8pt）と大幅に減少したが、「畜産物」の総額は8億5,465.3万円（+12,390.0万円）、県産は3億3,706.9万円（+1,418.1万円）といずれも増加した。品目別では、「卵」以外の品目すべてが金額ベースで県産利用が減少した（図表8-2）。

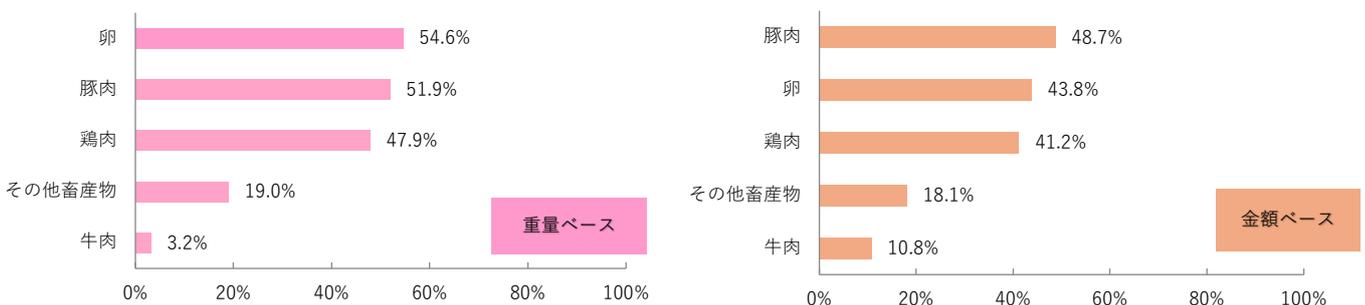
（図表 8-1）令和 5 年度「畜産物」の品目別重量及び県産利用率（重量ベース・令和 4 年度比）

	令和4年度			令和5年度			増減		
	総量 (kg)		県産 利用率	総量 (kg)		県産 利用率	総量 (kg)		県産 利用率
	総量	内県産		総量	内県産		総量	内県産	
<b>畜産物合計</b>	<b>722,433</b>	<b>341,873</b>	<b>47.3%</b>	<b>802,936</b>	<b>365,119</b>	<b>45.5%</b>	<b>80,503</b>	<b>23,246</b>	<b>▲1.8%</b>
1 牛肉	52,379	1,814	3.5%	41,522	1,316	3.2%	▲10,857	▲498	▲0.3%
2 豚肉	352,628	198,752	56.4%	394,717	205,052	51.9%	42,089	6,300	▲4.4%
3 鶏肉	218,219	101,774	46.6%	239,623	114,805	47.9%	21,403	13,030	1.3%
4 卵	54,872	27,604	50.3%	55,580	30,342	54.6%	708	2,738	4.3%
5 その他畜産物	44,335	11,929	26.9%	71,495	13,604	19.0%	27,160	1,675	▲7.9%

（図表 8-2）令和 5 年度「畜産物」の品目別金額及び県産利用率（金額ベース・令和 4 年度比）

	令和4年度			令和5年度			増減		
	総額 (千円)		県産 利用率	総額 (千円)		県産 利用率	総額 (千円)		県産 利用率
	総額	内県産		総額	内県産		総額	内県産	
<b>畜産物合計</b>	<b>730,753</b>	<b>322,888</b>	<b>44.2%</b>	<b>854,653</b>	<b>337,069</b>	<b>39.4%</b>	<b>123,900</b>	<b>14,181</b>	<b>▲4.8%</b>
1 牛肉	96,276	11,219	11.7%	80,303	8,657	10.8%	▲15,973	▲2,562	▲0.9%
2 豚肉	368,257	205,119	55.7%	421,301	205,316	48.7%	53,044	197	▲7.0%
3 鶏肉	179,618	78,436	43.7%	219,066	90,331	41.2%	39,449	11,894	▲2.4%
4 卵	24,955	10,682	42.8%	33,071	14,483	43.8%	8,115	3,801	1.0%
5 その他畜産物	61,647	17,433	28.3%	100,911	18,283	18.1%	39,265	850	▲10.2%

（図表 8-3）令和 5 年度「畜産物」の品目別県産利用率（左：重量ベース・右：金額ベース）



## 2.2.4 水産物

「水産物」の県産利用率は23.7%（▲1.9pt）と、前年度に比べ減少した。「水産物」全体の総量は301,504kg（+8,977kg）、県産利用量は71,384kg（▲3,365kg）と前年度に比べ総量は大幅に増加したものの、県産利用量は減少した（図表9-1）。

漁獲量が減少したことが要因となりソデイカ（64.6%、▲17.4pt）が大幅に減少したのを筆頭に、「その他水産物」以外の品目において利用率が減少した。その他水産物（7.9%、+3.2%）は近年の価格高騰に伴い、肉や魚の代用案として利用する調理場が多く増加した。

金額ベースでは、「水産物」の総額が3億6,006.9万円（+2,384.1万円）で前年度より増加したが、県産利用は7,535.9万円（▲404.4万円）と前年度より減少し、県産利用率も20.9%（▲2.7pt）と前年度より減少した（図表9-2）。

（図表9-1）令和5年度「水産物」の品目別重量及び県産利用率（重量ベース・令和4年度比）

	令和4年度			令和5年度			増減		
	総量 (kg)		県産利用率	総量 (kg)		県産利用率	総量 (kg)		県産利用率
	総量	内県産		総量	内県産		総量	内県産	
<b>水産物合計</b>	<b>292,527</b>	<b>74,749</b>	<b>25.6%</b>	<b>301,504</b>	<b>71,384</b>	<b>23.7%</b>	<b>8,977</b>	<b>▲3,365</b>	<b>▲1.9%</b>
1 もずく	31,015	30,886	99.6%	33,022	32,715	99.1%	2,007	1,829	▲0.5%
2 アーサ	8,310	8,267	99.5%	7,706	7,530	97.7%	▲604	▲737	▲1.8%
3 ソデイカ	2,681	2,199	82.0%	1,277	825	64.6%	▲1,403	▲1,374	▲17.4%
4 魚類	170,016	29,595	17.4%	176,168	23,705	13.5%	6,153	▲5,889	▲4.0%
5 その他水産物	80,506	3,802	4.7%	83,331	6,608	7.9%	2,825	2,806	3.2%

（図表9-2）令和5年度「水産物」の品目別重量及び県産利用率（金額ベース・令和4年度比）

	令和4年度			令和5年度			増減		
	総額 (千円)		県産利用率	総額 (千円)		県産利用率	総額 (千円)		県産利用率
	総額	内県産		総額	内県産		総額	内県産	
<b>水産物合計</b>	<b>336,228</b>	<b>79,403</b>	<b>23.6%</b>	<b>360,069</b>	<b>75,359</b>	<b>20.9%</b>	<b>23,841</b>	<b>▲4,044</b>	<b>▲2.7%</b>
1 もずく	24,654	24,538	99.5%	28,620	28,349	99.1%	3,966	3,811	▲0.5%
2 アーサ	8,593	8,546	99.4%	8,461	8,282	97.9%	▲133	▲264	▲1.6%
3 ソデイカ	2,572	2,185	85.0%	1,521	1,131	74.4%	▲1,051	▲1,054	▲10.6%
4 魚類	231,291	38,536	16.7%	248,711	32,435	13.0%	17,419	▲6,101	▲3.6%
5 その他水産物	69,117	5,600	8.1%	72,757	5,163	7.1%	3,640	▲437	▲1.0%

（図表9-3）令和5年度「水産物」の品目別県産利用率（左：重量ベース・右：金額ベース）

